

第2回三次市総合計画審議会 会議録

日 時	令和5年8月31日（金） 13時30分～16時30分
場 所	三次市役所本館6階 602・603会議室
議 事	(1) 第3次三次市総合計画骨子（案）について (2) その他
委員等	<p><出席委員></p> <p>有重 由紀子／三次市PTA連合会 代表 池上 裕章／三次市住民自治組織連合会 会長 岩本 智建／ひろしま農業協同組合三次地域本部常務理事 岡田 美津子／三次市女性連合会 会長 落合 裕子／三次市社会福祉協議会 監事</p> <p>【職務代理者】佐藤 明寛／三次商工会議所 会頭 中井 沙耶香／三次市保育所保護者会連合会 副会長 長尾 香織／NPO法人みわスポーツクラブ 理事 西田井 恭子／三次市防災士ネットワーク 副会長 林 昭三／三次広域商工会 会長 政森 進／一般社団法人三次観光推進機構 理事長</p> <p>【会長】伊藤 敏安／広島修道大学 国際コミュニティ学部 教授 田中 貴宏／広島大学大学院先進理工系科学研究科 教授 西本 寮子／県立広島大学地域創生学部地域創生学科 教授 神岡 百合美／EGG(草の根国際交流会) 代表 水田 史人／三次金融協議会 幹事 榎原 祐美／Lupine (カップペマ編集事務所) 代表・アシスタlab. 会員 前田 奈美／備北ひばり法律事務所 弁護士 安信 祐治／まちづくりワークショップ会長 (くらしづくり) 橋本 葵／まちづくりワークショップ会長 (仕事づくり) 福永 丈也／まちづくりワークショップ会長 (環境づくり) 藤井 皇治郎／まちづくりワークショップ副会長 (しくみづくり)</p> <p><欠席委員></p> <p>浦田 愛／県北地域環境活動推進協議会 特定非営利活動法人ほしはら山のがっこう 副理事長 前田 茂／三次市文化連盟 会長 財団法人三次市教育振興会 会長 森信 志津夫／三次市身体障害者協会 副会長 北木 清治／国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所 所長 河野 由美子／広島県北部厚生環境事務所・保健所 保健課 課長 住本 惟光／三次市官民共創コンソーシアム DXコーディネーター 山口 大輔／連合広島備北地域協議会 副議長 道原 愛二郎／まちづくりワークショップ会長 (ひとづくり)</p> <p><事務局></p> <p>笹岡 潔史／三次市経営企画部 部長 渡部 真二／三次市経営企画部企画調整課 課長 加藤 泰／三次市経営企画部企画調整課 係長 森岡 弘樹／三次市経営企画部企画調整課 豊永 美由紀／ 同 上</p>

(事務局)

開会に先立ち、ひと言お願いをさせていただきます。本日、本審議会を傍聴したいとの依頼がありますので、開会に先立ち、委員の皆様におはかりいたします。

本審議会は、会議の公開について特段の定めはございませんが、傍聴されることについて、ご異議はありませんでしょうか。

(各委員了承)

ご異議なしとのことですので、本審議会を傍聴されることについて、ご了解をいただいたものとします。また、本審議会のご意見を記録するため、音声の録音をさせていただくこと、本審議会のご意見や写真をホームページ等で公開することをご了解いただきたいと思います。

1 開会

(事務局)

ただいまから、第2回三次市総合計画審議会を開催いたします。

本日は、大変ご多忙のところ、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

それでは、開会にあたりまして、伊藤会長からごあいさつをお願いしたいと思います。

2 あいさつ

(会長)

皆様、こんにちは。いよいよ計画の骨子(案)が示されました。本日も前回と同様に、活発なご議論になるかと思えます。前回の後半は、活発な議論が進んで、時間をオーバーしてしまいましたので、本日は、多少、時間をコントロールしながら進めていきたいと思えます。ご協力の程、よろしく願いいたします。

(事務局)

それでは、議事に入る前に、本日の配付資料の確認をさせていただきます。

お手元にお配りしております資料は、会議次第と資料1～4です。本日は、**資料1**「第3次三次市総合計画骨子(案)」と**資料2**「施策分野ごとの現状・課題」を中心にご審議いただきたいと思います。資料がない方がいらっしゃいましたら、お申し出ください。

本日はWebにて、前田奈美委員、福永丈也委員、橋本葵委員にご参加いただいています。只今の出席委員は20人です。定足数に達しておりますので、これより議事に入らせていただきます。進行を伊藤会長にお願いします。

3 議事

(1) 第3次三次市総合計画骨子(案)について

(会長)

これより議事に入りたいと思えますが、その前に、審議会運営規則第10条第3項の規定による本日の会議録署名委員を、落合委員、藤井委員の両名をお願いしたいと思います。よろしく願いします。

(会長)

それでは、議事(1)第3次三次市総合計画骨子(案)について、まずは、**資料1**と**資料3**を事務局から説明いただき、議論に入りたいと思えます。それでは、事務局から資料の説明をお願いします。

《公開用》

(事務局)

＜事務局説明（略）＞

(会長)

骨子（案）ということで、資料1を中心に一部他の資料にて補足しながら説明していただきました。この後、皆様方からご意見を伺いたいと思いますが、概ね30分程度ご議論いただきたいと思います。1箇所、9ページの将来人口のところですが、市で独自に推計をされています。一番上の表に、合計特殊出生率1.56とありますが、これは市より県の値に近いのではないかという気がします。資料3の5ページに市、県、全国の合計出生率の記載があります。市の場合は約1.7で、これに対して、県が約1.5になっています。資料1の数値もおそらく少し上向くのではないかと思いますので、数値を確認していただければと思います。

(事務局)

合計特殊出生率にはいくつか種類がありまして、資料3の5ページの表に示させていただいているのは、厚生労働省の人口動態保健所が作成しているデータです。

今回、将来人口推計で使わせていただいたものは、2020年の国勢調査の数値を基に計算したものとなっております、計算方法が少し異なることから、数値が違ってきます。

(会長)

わかりました。今のように少し注意書きを加えて頂ければと思います。

市の独自推計ということで、黒い線がありますが、これは出生率と社会移動に考慮し、頑張ればここまで減少を抑えられるという目標値ですので、こういった見方が適切かどうか、もっと頑張ればこういったことも考えられるのではないかというご提案や意見をいただければと思います。

その他、6ページ目の「めざすまちの姿」などを踏まえて、考え方が人口目標等と一致しているかどうかを議論していただければと思います。「めざすまちの姿」につきましては、ワークショップや市民アンケート等の様々なご意見が反映されていると思いますので、そういった議論が尽くされているかどうかを見ていただければと思います。

(委員)

表現について、まず発言させていただきます。最終案ではないのでまた変わってくると思いますが、4ページの上から4行目「『ウェルビーイング』志向の高まりも言及されている」とあるのですが、「高まりにも」という表現が日本語として適切かなというのが1点です。

それからもう1点、6ページですが、キャッチフレーズはとても大切だと思うのですが、この5つを見ますと、「つながり」だけが名詞になっています。他とキーワードと合わせて動詞の形にして「つなぐ」「つながる」「ささえあう」という形にしても大きく変わりはないのかなと思います。

表現からと申しましたけれども、予想を上回る速さで人口減が続いていく中で、三次の特色をどう活かしていくか、どういった施策を作っていくかというのはすごく大切なことです。非常に厳しい状況の中で、皆さんと一緒に将来を見据えて、「知恵を出しましょう」「汗をかきましょう」とおっしゃっていることはとても大切なことだと思うので、なるべくわかりやすく、皆と一緒にできるようなことが1つでもあればと思います。

また、一人も置いてきぼりにしないという覚悟を示されているので、やはり多様性をきっちり受け止めていく必要があるかと思っています。外国人をはじめとした、色々な考え方が新たに入ってきている中で、それを受け入れるのは時間がかかって難しいと思うのですが、受け止めて一緒

《公開用》

に考えようという姿勢を持ち続けるということも、つながるための第一歩であろうと思いました。

それから、高齢者の単身世帯が非常に多くなっているという状況は、非常に深刻な話だと思うのですが、いざとなった時に不安から少しでも解消されるように、つながりというのをしっかり持てるような仕組みをきっちり作っていけるような形が必要かと思います。

それから、社会減が少し減っているという兆しがあること、昼間人口が多いということですが、こういった三次の特性をうまく活かしていくことが、三次の自信につながっていくのかなと思います。お話を聞きながら思うのは、やはり一人ひとりが不安から少しでも解放されるようなつながりをどう作っていくか、そこから具体的なものができていくのかなと考えているところです。

(会長)

ありがとうございます。細かい表現は後日調整していただきたいと思います。まちの将来像の基本的な考え方として、いくつかご指摘がありました。関連して何かご意見等ありましたらご発言をお願いします。

(委員)

2点ほど、まず1点目、**資料1**の6ページについて、「つなぐ」と「つながり」はかなり近い言葉だと思ったのですが、この2つをあえて並列して挙げたのには何か思いがあるのでしょうか。2点目、三次は合計特殊出生率が比較的高いという特徴がありますが、人口分布で人口の変化を見た時に、三次の強みはいくつかあるかと思います。そのあたりが、この「めざすまちの姿」というところにも反映されると良いのかなと思いました。

(事務局)

6ページの「めざすまちの姿」のキーワードですが、現在の第2次三次市総合計画で言いますと「しあわせを実感しながら住み続けたいまち」がそれに該当します。事務局では、現段階でキーワードとして整理しています。こういった言葉を使って、次の10年間の「めざすまちの姿」の文章・キャッチフレーズを作っていきたいと思っておりますので、また案をお示しして、皆様にご審議いただければと思います。

「つなぐ」「つながり」ですが、これらに込めた思いとしまして、これから人口が減っていく中で、これから新たにつながりを作っていこうとする思いと、そのつながりを大切にしていかななくてはいけないという思いがあります。「つなぐ」と「つながり」が、同じような意味にも捉えられるかと思いますので、そのあたりは整理していきたいと思っております。

(委員)

今あるつながりを活かしていこうというお話と、新しくつながりを作っていこうというお話だと理解したのですが、その辺がうまく表現できると良いなと思いました。

(会長)

このことに関連して言えば、7ページ目の「つなぐ」「つながり」「ささえあう」とあり、ゴロも良いのですが、今の話の趣旨から言えば、「つながり」「つなぐ」「ささえあう」という表現の方が、資源を活かしてさらに伸ばしていくという含みがあるような気もいたしましたので検討いただければと思いました。

(委員)

6ページですが、2「三次市まち・ゆめ基本条例」のまちづくりの目標のところ、(4)

《公開用》

「歴史と伝統を継承するとともに」とありますが、「学ぶ喜びをもてるまちづくり」よりは、「学ぶ喜びのもてるまちづくり」「学ぶ喜びがもてるまちづくり」の方が、つながりが良いかなという感じがしました。

それから11ページですが、政策構成の中の政策2に「防災・安全」があります。防災と減災は一緒かもしれませんが、どこかに逃げるとというのが防災で、減災は、災害を減らすための、砂防ダムのようなことかと思います。何が言いたいかといいますと、防災に加えて、「減災」という文字があっても良いのではないかと思いました。「防災・安全」の主な内容の中に、事前に様々な施策を展開して災害を減らす、そういった考えも大事なことはないかなと思います。

(委員)

今のお話から言いますと、「防災」だけではなかなかやりきれないというところがあるので、そういう意味では「減災」という考え方をこの総合計画の中に盛り込んでいくことができると良いのかなと思いました。

(委員)

11ページの「政策の柱」の主な内容について、「防災・安全」のあたりに「相談」なども入れてほしいと思いました。市のホームページを見ると、様々な相談ができるという案内があり、消費相談、障害のある方や母子の関係の相談など、相談に応じた相談窓口があると思います。分野で言えば、「防災・安全」に入ってくるかなと思ったので、その辺も入れてほしいなと思いました。

(会長)

ありがとうございます。11ページの表だと、いくつか主要な項目しか表記できない面もあるかと思いますが、今のような防災あるいは減災等の表現を何らかの形で工夫できればと思います。むしろ、この後の議論で、6つの政策分野ごとの具体的な課題のところでご指摘いただければと思います。

(委員)

6ページの(4)について話がありましたが、「三次市まち・ゆめ基本条例」をそのまま書かれているので、ここはこの表現でやむを得ないかなという気がしています。

また、「将来人口の考え方」として、グラフの黒い線について、「こう頑張れば、こうなれる」という目標値として、このまま放っておくところなるが、頑張れば1,000人ばかり増えるという感じで残しておいてほしいと思います。

防災・減災の話がありましたが、自主防災組織があり、防災士の方もいらっしゃるのので、防災に関わっている地域住民からすると、防災の方が肌身に感じやすいという気が個人的にはします。

最後に、人口のところ、外国の方が約600人いらっしゃり、増えているという話なのですが、分析だけで終わっております。これからのまちづくりには、外国の方の力も借りて一緒になって作っていかねばいけないと思うので、何も記載がないのはどうなのかなと思いました。

(会長)

ありがとうございます。最後の点については、「多文化・共生」に該当しますので、資料2で再度ご意見をいただければと思います。

(委員)

11ページ「政策の構成」の政策4「豊かな心と生きがい」の中の「スポーツ」のところで、「スポーツ推進、女子スポーツ支援、スポーツコミッション等」とありますが、「生涯スポーツ」に関する文言が入ったら良いのではないかと思います。現在、挙がっている項目は、どちらかというところ、抽象的な表現のカテゴリーになっているので、小さい子どもから高齢者までの枠の中で、「生涯スポーツ」は重要だと思えますし、「健康で安心感のある暮らし」という部分にもつながってくると思えますので、これが入ると良いのではないかと思います。

(会長)

ありがとうございます。この点についても、**資料2**の議論の際に、再度ご指摘いただければと思います。

(委員)

6ページの「めざすまちの姿」のキーワードの部分について、前回の会議でも発言させていただいたのですが、一人でいたい人が増えているという社会の雰囲気がある中で、「ささえあう」という言葉が、ぱっと聞いた第一印象では「迷惑をかける側がいる」「迷惑をかけてはいけない」という心理が働いて、「ささえあう」ということをご近所や親戚同士でもなかなかしないような心理になっているのではないかと思います。「三次市まち・ゆめ基本条例」の第6条(1)にも「共に認めあい、支えあう」と書かれていて、ワークショップでも「お互いに認め合おう」というキーワードが前面に出ていたので、「ささえあう」よりもまず「みとめあう」という言葉が前面に出てきてくれるようなキーワードを使ってもらえたら良いなと思いました。

(会長)

ありがとうございます。重要なお指摘だと思いますが、これについて何かご意見があればお願いします。

(委員)

先程おっしゃられたように、むしろ「みとめあう」という方が大切だと思いました。人権や共生社会、多文化、多様性ということが言われる中で、「みとめあう」ということが、10年先を見据えても大切だと思います。ワークショップやアンケートを見ても、かなりご意見として出てきているようですので、入れていただけると嬉しいなという思いです。

(会長)

今のように、普段の生活の中で、お互いに人格や人権を「みとめる」ことが重要だと思います。加えて、それを踏まえたうえで「ささえあう」にもいくつか意味があると思います。防災、減災を含めて、みんなでいざという時のため「ささえあう」という考えも重要ではないかと思いますので、これを含めて議論いただければと思います。

資料3について、重要なことを思いつきましたので、紹介させていただければと思います。

7ページを見ていただければと思います。未婚率について、将来人口等の自然増に係る事項です。7ページの表、1番目が25歳～29歳の女性で、三次市は今まで未婚率が低かったのですが、県や全国並みに近づいています。これは特に2010年から2015年にかけての世代になりますが、この5年後がその下の表、2015年時点の25歳～29歳が5年後になると30歳～34歳で、傾向としては5年前の急激に未婚率が高くなった世代が、現時点でも30歳～34歳でそのまま続いているという数字になります。

《公開用》

これを踏まえて、8ページの下グラフについて、女性の有配偶率ですが、下のグラフに表があります。一番下の線（赤）が2020年、一つ上の線（水色）が2015年の国勢調査です。左側から三つ目の列の25歳～29歳の方々の2015年の有配偶率が43.9%ということで、やはり低くなっています。その後の5年後が右隣の30～34歳、2020年が61.6%ということで、この間結婚した方もいらっしゃるのですが、従来の他の年代の方々と比べると低いことがわかります。30歳～34歳の有配偶率が低く、より注意したいのが、25歳～29歳の2020年時点で有配偶率が37.9%ということで、過去の25歳～29歳と比べてかなり低いです。まだ統計はないのですが、右下の30歳～34歳は5年後にはかなり低くなるということが明確にわかります。

この年代につきましては、9ページ目の人口ピラミッドの令和2年の表で、赤が女性、青が男性ですが、30歳～34歳あるいは25歳～29歳が900人～1,000人となっています。それを踏まえ、有配偶率が低い、未婚率が高いグループについて、重点的にケアすることが必要かと考えられます。

あわせて、急に未婚率が増えた理由にはおそらく社会経済的な要因以外にもあり得るはずですが、せつかく出生率は高めにあるので、重点的にケアし、5年後にはその分母をいかに維持するかという方策が具体的に見えてくるかなと思いました。

後ほど時間があれば、議題1も含めて議論をさせていただければと思いますので、次の議論として、**資料2**について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

<事務局説明(略)>

(会長)

ありがとうございます。先程、**資料1**で6つの政策分野の案が提示されました。**資料2**は6つの分野ごとに現状と課題が整理されています。市民アンケートやワークショップ、前回の審議会での皆様のご意見を踏まえて整理したものとなっております。

ここでの現状の認識が、今後具体的な施策事業等に結びついていきますので、今までの議論、市民アンケート、ワークショップの結果等を踏まえた事項が漏れなく記載されているかどうか、先程の議論でも関連のご指摘がございましたが、それぞれの分野からより深く見ていただければと思います。

6つ分野がありますので、各分野について15分程度の時間を取って議論したいと思います。もちろん跨る分野もあるかと思いますが、分野1で介護・看護人材が不足しているという表現がありましたが、外国人を労働力、消費者としても入れるという視点も重要で、分野5にも係る事項だと思います。跨る事項も考慮しながら各分野について議論していただければと思います。

それでは、分野1「健康で安心感のある暮らし」について、「保健・医療」「福祉」「多文化・共生」といった視点からご意見をいただければと思います。

(委員)

医療ということで、書かれている通りだと思います。言い直すとすれば、このまちの大きさに対して医療がどうかということ、様々な指標がありますが、決して負けていないと思います。小さなまちだからこその顔が見えるということで、直近のコロナに関して言っても、「たらい回し」というようなことは、この地域ではほとんどありませんでした。それは、中央病院の先生方が頑張られたということもありますが、そこをみんなで支えたということだと思います。

しかし、心臓血管外科がないことや精神疾患に弱いということ、他の地域もそうですが産婦人科や小児科が少ないといった課題があります。日本の医師全体に言えることで、働きたい分野の傾向はあります。3Kや働き方改革という言葉もありますし、日本の医療は欧米に比べて少ないス

《公開用》

スタッフで多くの患者、利用者を支えているという歴史もありました。

もう1つ、スタッフ不足の課題もあります。看護師、薬剤師、ケアワーカーがなかなか集まらず、病院だけの努力ではどうにもならないということを複数の医師がおっしゃっていましたので、地域の課題としてどのように取り組んでいくかということかと思えます。

一方で、外国人労働者の問題も同然出てくると思いますが、昔のように安い労働力ということでは決してありませんし、それなりに法律が整備されており、日本人を雇用する以上にコストはかかると聞いております。しかし、非常に勤勉とのことで、三次でも雇われている医院や施設がありますが、非常に働きぶりがよく、日本人のスタッフに良い影響を与えてくれているということを伺っています。ダイバーシティの話がありましたが、口で言うのは非常に簡単なのですが、文化が違うということを、頭で理解するというのと、実際に腑に落ちるということは何らかの働きかけや啓蒙が必要で、接していれば受け入れられるという単純なものではないような気がします。

歳をとるとどうしても病気になりますが、早期発見と重篤化の予防は、病気が発症してから医療が介入して始まる話です。それ以前の予防については、医療は介入できません。医療や介護の予防で重要なことは「集う」「社会参加」であって、ここでいう「つながり」だろうと思えます。人や組織がつながる、つないでいくということ、自治力、まちづくりというワードがありますが、「コミュニティづくり」という言葉に集約されるものと思えます。「つながってください」と言われて「はい、わかりました」というようにはつながりませんし、そこには、価値の創造として、あそこに行ったら、何ができる、誰と会う、という仕組みを作らないと、集うということは難しいと思えます。

(会長)

先程のように、つながり集うというような仕組みづくり、単に地域外からだけでなく地域の中で様々な世代がつながって支えあうということも重要だと思えます。

(委員)

1点質問をさせていただきます。2ページ目の政策1「健康で安心感のある暮らし」の福祉の分野で、「その他」に「生活困窮者への支援を進めるとともに、孤立化防止や、引きこもり、虐待等への対策に向けた具体的な取組を実施する必要がある」と記載されていますが、高齢者や障害のある方など全て含めた共通事項として記述されているのか教えていただきたいです。

(事務局)

こちらに記載しております、孤立化防止や引きこもりなどにつきましては、高齢者・若い方も含めて様々な年代の方についての記載になります。

(委員)

3ページの「健康で安心感のある暮らし」の中で、市民アンケート調査において「人権尊重、男女共同参画を進めている」の満足度・重要度ともに低い結果となっています。男女共同参画社会基本法が施行されて20数年になり、女性の社会進出や政治分野での活躍は進んできているように思うのですが、家庭や地域を見ると、満足度や重要度が低いという結果が見え、後戻りをしているような気がします。人権などの面では、DVや虐待も減っておりませんので、しっかりと取り組んでいかなくはいけないところだと思います。これを大切にしないと人口も増えず、出生率も上がらないのではないかと思います。

三次市女性連合会としても、そのような勉強をしておりますが、講演会をしても女性が主に参

《公開用》

加してくださる状況で、男性もしっかりと講演会などに参加していただきたいという思いがあります。そういったところに力を入れていただきたいと思います。

(会長)

ありがとうございます。続きまして、政策2「安全で快適な生活環境」の分野につきましてご意見をいただければと思います。

単純な質問なのですが、4ページに「環境基本計画より」と記載されていますが、片付けごみの増加等について、環境基本計画の中で記述があるということでしょうか。

(事務局)

おっしゃる通り、環境基本計画の中で、片付けごみ等の要因について記述がありますので、そういった意味で記載しています。

(会長)

コロナ禍で在宅勤務等が増えて、家庭ごみが急に増えたということや最近では災害ごみが出ているということで、ごみも多様化しているという課題があると思います。

(委員)

1点目、6ページ「災害に強いまちづくり」を見ると、「雨水貯留施設をはじめとするハード面の整備のほか」とあるのですが、全体的にソフト面の対策が前面に出ている印象です。これは何か意図があつてのことでしょうか。

2点目、4ページ「循環型社会・脱炭素社会の推進」の「気候変動への適応も勘案しつつ」という記述で、太陽光発電など脱炭素のことかと思いましたが、明確に示されていないので、ここは明確に脱炭素などの話があっても良いのではないかと思いました。

それに関連してですが、政策6の14ページの「その他」にも脱炭素、カーボンニュートラルの話があるのですが、なぜここで出てきたのかと疑問に思いました。

(事務局)

1点目の「災害に強いまちづくり」のところでは、特にソフト・ハードどちらかを重視ということは意識をしておらず、ハード・ソフトの両面からの防災・安全に取り組んでいるという意味で記載しています。そのような印象があるということですので、記載内容を検討したいと思います。

14ページにつきましては、森林整備、木材活用の関係で記載しています。

(委員)

わかりました。そのことがわかるように記載していただけると良いのかなと思いました。

(委員)

防災・減災についてなのですが、防災士の受け取り方としては、災害を100%防ぐということではできないので、災害が起こるまでに自分の身を守る取組をすることを防災、減災とは、起こった後にいかに被害を減らしていくかだと捉えております。したがって、言葉として防災と一言で入れてしまうのはもったいないという思いがあります。命を確保した後に、いかに暮らしをつないでいくか、ものごとが起こった後の被害をいかに減らしていくかという部分が減災です。

自主防災組織の場合に、災害が起こる前までの取組の他に、本来は起こった後コミュニティを

《公開用》

維持して、いかにそのコミュニティの皆さんが生き残れるか、生き続けていくかというところまで求めていきたいところだと思っています。そういう意味では、防災・安全に「減災」の文字が入ってもいいのではないかと思います。

防災士の育成は、市からの補助金もあって、随分進んだのですが、地域によっては誰も受け手がおらず、仕方なく、資格だけ取るといった人もいます。三次市防災ネットワークという組織もありますが、一度も顔を見ない人もいますし、集うのは大体自分から資格を取った人だけというケースもあります。そういった現状を以てして、防災士の育成を進めてきたと言っていいのか疑問に思います。

(会長)

非常時に備えて普段から安全を確保するという意味では、普段取り組むことが重要だと思います。一方で、いざとならなければみんなの関心が向いてくれないという意味では、おそらく町内会、自治会にも同じような面があって、特定の切羽詰まった状況にならなければ加入や活動をしなないということと関連しているのではないかと思います。

(委員)

5ページの「生活基盤」の「道路環境の維持と下水道の管理」のところですが、「工事後の周辺環境の影響を配慮して」というような視点を入れていただきたいと思います。

私は農業をしているのですが、道路整備の後に水路の付け替えや再整備をされるのですが、用水路が非常に使いにくいものになっていることがあり、その後の農業活動で水が取りにくい、出しにくいということがよくあります。

また、道路を整備した際に、必要以上に大きな道路になると交通量の増加や大型のダンプが通るようになり、そうすると歩道を作るというような附帯工事が増え、予算もかかってくるので望まざる発展となるのではないかと思います。したがって、工事後の影響を配慮してという視点を入れていただきたいと思います。

(会長)

ありがとうございました。これは承りましたということでよろしいでしょうか。

(事務局)

はい。

(委員)

5ページの「道路環境の維持・下水道の管理」というところで、近年、三次でも問題となってきた街灯の問題について、政策5の「住民自治」の問題にもなってくると思うのですが、自治体頼みだった街灯が、常会がなくなることによって、街灯がついていない地域が出てきています。そういったところは市からの助けが必要になってきているのではないかと思いますので、道路環境というところで街灯の施策が盛り込まれたら良いのではないかと思います。

(委員)

防犯灯などの記載は6ページの一番下にあります。記載箇所を検討していただければと思います。

《公開用》

(委員)

4ページの「自然環境の保全」の中には、木材を伐採、その後の植林の取組の大事さがこの言葉に込められていると理解をしているのですが、農地や山林というのはダムのような役割があります。また、耕作放棄地などで太陽光発電システムの設置が拡大し、雨が降ればそのまま川に流れ、水位が増しているという状況があります。

一方で、原子力に頼らない生活ということになりますと、太陽光発電も大事で、今は、木材が高騰して、木の伐採がどんどん行われております。防災・減災にもつながると思いますが、空気の浄化を含め、木を切ったら植林をするという意味がここに入っていれば良いなと感じました。

(会長)

植林をしなければカーボンニュートラルにつながらないと思いますので、重要なご指摘だと思います。今のご指摘で自然エネルギーも重要なのですが、景観・自然環境との調和にも配慮するというバランスが、今後もっと重要になってくると思います。

5ページの「利便性のある公共交通」のところで、JRについての記載がないのですが、総合計画にどういった形で表記するかはともかく、地域一体となって考えていかななくてはいけないと思いました。

(委員)

6ページ目の「防災・安全」の「安全・安心のまちづくり」の中に、市役所で色々な相談を一時的に受けるというような、全てそれを受けて解決すると約束するものではないけれど、何か困った時は市役所で一旦相談を受けるというような記述があれば良いなと思います。

(会長)

ご意見として記録しておきたいと思います。次に、政策3「子どもの未来応援」について、ご意見をいただきたいと思います。

(委員)

7ページの「地域で支える」というところで、「子どもたちと地域のつながりが不足し、地域が子どもへ関わること（声掛け等）が難しいケースもある中」ということで、子どもが主体的にまちづくりに関わりたくなる仕組みづくりというのは大変素晴らしいことだと思いますが、地域も積極的に声掛けなどをして、あいさつから関わっていく環境を作っていけたらと思いました。

(委員)

7ページの「一人ひとりの育ち」について、「発達に課題があるなど、支援の必要な子どもが増加傾向にある」とあります。前回の会議でも発言させていただきましたが、三次市では支援が必要な子どもが中学卒業後、進学するとなった際に、庄原の特別支援学校もしくは広島市内の学校しか行けないと聞きました。支援の必要な子どもは環境が変わることにすごく敏感な方が多いと思うのですが、広島市内の方に進学したとなった際に、親も側にいることができず、三次との関わりも少なくなってしまうと思います。進学後は、その地域で就職してしまい、三次に帰ってきても、どこに就職すれば良いかわからないという状況もあると思います。このようなことを要因として、三次の人口が減っていくのではないかなと思います。

(会長)

義務教育と中等教育の話を整理して、市の役割分担を明確にする必要があるかと思います。

《公開用》

(事務局)

今のお話につきましては、今後施策の内容を考えていく中で、担当部署にも伝えていきたいと思えます。

(会長)

あくまで現状と課題ということですので、具体的な施策事業等は今後の計画で議論していきたいと思えます。

(委員)

子どもの環境についてですが、図書館が各地域にあるのですが、子どもが行きやすい場所にならない場合があります。子どもと本をもっと近づける形がとれたら良いと思うのですが、例えば、学校の図書室を充実させて地域の人も入れるようにし、学校と地域を近づけることで、地域と子どもたちの環境が豊かになってくるのではないかなと思います。安全性のこともあるので塀は高いのですが、これからは子どもも保護者の数も少なくなるので、運動会を一緒にするなど、お互いに力を借り合って、「ささえあう」や「つながる」ことができればいいのではないかなと思います。いろんな人を巻き込んで、市町の環境を整備していくとか、やってみればおもしろいのではないかなと思います。

外国の方の話になりますが、外国の労働者の方がこれからは増えていきます。なぜかという若い方がいらっしゃらないからです。どこの国・地域でもそうかもしれませんが、汗を流したり、少し過酷な労働をする若い方が減ってくる中で、少しでも活気のある明るいまちにするためには、外国の方を受け入れていけるまちづくりが必要だと思えます。外国の方が暮らしやすくなるためには、みんなに受け入れてもらえる、そのままの姿を認めてもらえる、生活しやすい環境を理解していくことが大切かなと思います。

これからのまちづくりは、高齢者や小さな子ども、障害を持った方だけではなく、外国の人も含めて、色々な面をみんなで助け合えたらと思えます。自分たちの将来をよくしていくためにも、若いうちからできることを始められたらいいと思えます。

三次市の中だけでは難しいので、市外の力をどんどん借りて、三次から出た方にもずっと関心を持ち続けてもらえるような発信方法などを見つけていければと思えます。

(委員)

現在、3歳と2歳の子育てをしながら働いています。7ページに、「待機児童は0人だが、3歳未満の途中では待機児童が発生している」と書かれていますが、実際の数字が気になりました。

下の子を保育所に預けようと思った時に、上の子が入っていたことで入りやすかったのですが、兄弟で同じ保育所に入るのが難しい方もおられ、双子でも別々の保育所に預けているという話も聞きました。そういった方の話を聞いていると、負担がかなりかかっていると感じますし、そのあたりの現状把握がどのくらいできているのか、問題意識を持って対策されるのか分かればいいかなと思えました。

(会長)

数字は今わかりますか。

(事務局)

現状では数字がわかりませんので、調べてお知らせします。

(委員)

先程、他の委員から図書の話がありました。読書というのは、学校教育のなかでも学力の定着には必要だということを経験的にも見かけることがあります。8ページの「地域・家庭との協働」ということで、市教育委員会はコミュニティスクールの設置等を進められ、来年度、再来年度に向けて関連な動きをされていらっしゃると思いますが、この場を活用して、市内の学校の図書室を使って図書館機能を充実できないかという協議ができるのではないかと思います。子どもたちにとっても読書の機会が増え、地域住民の方も学校に入りやすくなり、学校と地域の垣根が下がることにも必然的につながってくるのではないかと思います。

コミュニティスクールに関しては、こういった取組を通じて前向きな発想で取り組んでいきたいと思うので、学校と地域との関わりを軸として取り組めたらいいのではないかと思います。図書室の充実についてのご意見は、次の種をまくための良いチャンスではないかと思います。

(会長)

コミュニティスクールのような地域と学校の関りの中で、図書館はとても重要な役割を果たすと思いますので、三次ならでのアイデアをご検討いただければと思います。

(委員)

8ページに「女子学生の愛着が弱い」と記載されていますが、なぜ女子学生の愛着が弱いのかということについて、一文が入っていると、出生率が上がることにもつながっていくと思いますので、今後の議論がしやすいのかなと感じました。

(会長)

これはおそらく、すぐには要因が出てこないと思います。県のアンケートでも言えることですが、特に20代前半の県外への転出状況は、広島県全体ですと女性の方がはるかに多いです。

これをいかに引きとめるかというのは重要な課題にもなってくると思いますので、政策5にも関連してくるので、またご意見をいただければと思います。

次に、政策分野4「豊かな心と生きがい」ということで、「芸術・文化」「スポーツ」につきまして、それぞれの立場からご意見をいただければと思います。

(委員)

9ページに「地域の伝統文化を保存継承している」の満足度が高く、重要度が低いと記載があるのですが、重要度が低いことについて、いかがかなと思います。それだけ地域の中で定着しにくくなっているのかなと感じました。地域の歴史的な部分・良さをもっと明確にしていけば、重要度も上がっていくのではないかと思います。例えば、秋祭りの神儀など、小さくても、地域で頑張っている部分を、もっと表に出していったら良いと思います。

10ページのスポーツ分野になりますが、健康づくりにつながるスポーツというところもしっかりと全面に出たら良いかなと思います。地域の方々に健康で長生きしていただくための環境を保持するために、競技的な部分は取り払い、子どもから大人まで生涯スポーツという部分を表に出していただけたら良いのではないかと思います。

競技スポーツについてですが、勝利主義的な部分を強調するものではなく、体を動かしてみんなで楽しめるという部分が大切だと思いますので、そのことをスポーツをしない人や子どもたちにもわかりやすく、市として明確に表に出していただけたら良いと思います。

現在、子どもたちの体力の二極化が課題になっており、スポーツをしない子どもたちの方が人口的に多いかと思いますが、運動やスポーツに関われる環境づくりを、市・まちとして取り組

《公開用》

んでいけたら良いなと感じています。いずれ、その分母が広がっていけば、有能な選手が出るかもしれないので、広くスポーツを楽しむ環境づくりが必要なのではないかと思います。

(会長)

1点目の地域の伝統文化への重要度が低いということですが、これは市民アンケートで医療や福祉と比べて相対的に低いということですので、必ずしも軽視されているという意味合いではないかと思います。

それからスポーツもおっしゃる通り、中学校・高校ですと、例えば高校野球のように是が非でも甲子園というような競争的なスポーツが多いのですが、生涯を通じて、特に子どもたちの世代から様々なスポーツを楽しむという視点の方がはるかに重要だと思います。

地域によってできるかどうかはありますが、部活動の地域移行をきっかけに、裾野が広がる可能性もあると思いました。

(委員)

三次は、数多くの著名な方を輩出している中で、三良坂出身の升田幸三という将棋の名人の方をもっと活かした取組ができればと思います。先日、将棋大会が行われたのですが、主催者は主に一人の方でこの方ができなくなって、大会がなくなったら非常にもったいないと思いました。市外や関東からも多くの方が来られておりますので、三次の文化の発信につなげられたらと思います。

三次では、スポーツでは野球が盛んですが、文化も含めて、プレイする方だけでなく観る・応援をすることを楽しめたらいいと思います。

(会長)

確かに自分でするというよりも鑑賞する、観て楽しむというスポーツもあると思いますので、シティプロモーションの一環として進めていただければと思いました。

次に政策分野5の「いきいきとした地域」の「定住・交流」「住民自治」について、ご意見をいただければと思います。

(委員)

13ページの「住民自治」というところで「人口減少・少子高齢化を背景に、地域づくりの担い手・後継者・人材不足、行政と住民自治組織の役割分担が懸念される」とありますが、行政と住民自治組織の役割分担は何が懸念されているのでしょうか。合併して以降、旧町村に支所がありますが、そのあたりの制度設計も含めて行政と自治組織の役割分担を再度考えるということなのか伺いたいのが1点です。

もう1点、「自治会・常会など」の部分で、最初の一文は長いので分割した方が良いのではないかと思います。その後、「自治会・常会の在り方の検討を踏まえ」と記載がありますが、どのような検討をされたのか、何を示しているのかお伺いしたいと思います。

(事務局)

行政と住民自治組織の役割分担の部分は、住民自治組織を中心に、各地域で自主的な活動をしていただいておりますが、改めて見直すということよりは、担当課を中心に、引き続き、どういった形が良いのかというのを行政と住民自治組織で話し合いをさせていただきたいという意味になります。

常会については、市街地を中心に常会に入っていないというような課題がありますので、

《公開用》

引き続き、大きな検討事項だと考えております。

(委員)

人材不足や後継者不足が懸念されるということはわかりますが、役割分担が懸念されるというのはどういうことなのかと思い、今後、そのような課題に対して取り組んでいく必要があるという問題定義がされているのかと思いました。

(会長)

表現をご検討いただくということでお願いします。

(委員)

最初にお話をさせてもらったように、住民自治と疾病の予防は直結していると思います。政策が違うので書き分けていると思うのですが、地域のイベントや祭りだけではなく、健康にも関係するので、そういったニュアンスも入れていただいた方が良いのではないかと思います。

(委員)

住民自治組織の役員をしていますが、13ページの「住民自治組織が担う活動内容は多岐にわたっている」ということについては、身をもって実感しているところです。後継者不足、人材不足が課題で、自主防災組織に人を割けず、住民自治組織＝自主防災組織になっているのが現状です。補助金は減る一方で、やることは多く、行政から多くの仕事がやってきて、資金がない中で新しい人に入ってくださいますというのは厳しい現状があるのではないかなと思っております。

また、行政がある程度の道筋を決めてから、住民自治組織に話がやってくるので、そこでどんな意見を出したところで、聞いてはくださるのですが、それが通ることはほぼないということが現状です。私の勤めているコミュニティセンターが取り壊されることも噂で聞いて、説明会はありませんでした。

役割分担という意味では、住民自治組織と行政の連携が非常に大切だという文言があると良いかなと感じました。

(会長)

ありがとうございます。役割分担が懸念されるということの1つかもかもしれません。

(委員)

「定住・交流」、 「住民自治」に記載があるのですが、「外国人人口は、ここ5年間で200人以上増加している」との記述があるのですが、課題が大まかな気もいたしまして、文化や思想が全く違う方もいらっしゃると思いますので、外国人の支援や生活環境の維持というところはもう少し煮詰めても良いのかなと思いました。

(会長)

ありがとうございます。外国人につきましては、**資料3**の4ページ目に国籍別の人口がございます。今のご指摘に関連してですが、日本語教育が正式に制度化されますので、こういった機会に三次でも日本語教育に対応して、労働力あるいは消費者として受け入れる仕組みが重要だと思います。

続きまして、政策6「活力ある産業」です。ご意見をいただければと思います。

(委員)

三次の商工業につきましては、15ページに記載がありますように、市民アンケートでは「お店が多く買い物がしやすい」「働くところがたくさんある」ともに重要度が高いが、満足度は低い結果となっています。せっかく市外に出て勉強をしていただいた若い方に、三次に帰って来ていただける、その方々を受け入れる企業が多くあれば理想的だと思います。商工会議所だけでなく、行政の皆様も含め努力をしているところですが、企業に来ていただき多くの雇用を生み出してもらうことが良いのかなと思っています。中国やまなみ街道ができたことをメリットとする企業を誘致する努力が必要ではないかと個人的に思っています。

「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を打ち出しておられますが、東京で働かなくても三次でも働けるようなデジタル環境を整えることは重要なことだと思います。Wi-Fi機能を各所に充実していくことは、企業だけでなく、観光面でも大切なことだと思います。インバウンド効果も含めて、外国の方に観光に訪れていただける1つの条件として重要なことだと思います。

外に出た若い方が三次に戻ってくる条件の1つとして、高校生まではできれば三次で過ごしてもらうことも必要かと個人的には思います。中高一貫教育校を活用して、三次の深く良いところを若い方に感じていただいて、三次に帰りたいという思いを抱いてもらえるまちであってほしいと思います。

「つながり」というキーワードが出ていましたが、きんさい祭や各地のそういった祭りを通じて、みんなで盛り上がった、楽しかったという感情はずっと深くつながっているもので、重要なことだと思います。三次に住んでいて楽しかった思い出を抱きながら、三次に戻っていただき、働く場として、企業が受け入れることができれば良いのですが、それが難しければ、自らで起業して、起業した方を行政や商工会議所がしっかりとサポートしていける形ができあがっていけば良いと思いますし、そのようにしていきたいと思っています。

(委員)

「定住・交流」についてですが、親と子の絆が薄れていきつつあるのではないかと危惧しています。特に結婚をされて相手の方が田舎を嫌いであれば、田舎には帰って来られないと思います。私の時代は、長男は家を継がなければいけないという使命感がありました。旧町村は、人口減少も激しく、荒廃して若い方が帰ってきて生活するのは難しいのではないかと思います。しかし、若い世代も増えている地域もあります。娘さんがお婿さんを連れて帰ってきている地域です。家庭環境の中で、小さい頃から親子の絆をしっかりとし、行政が策を講じられたら定住人口も増えるのではないかと思います。

(委員)

14ページの「農林畜産」についてですが、アンケート調査では「農業が盛んである」との記載があります。見た目はそうかもしれませんが。市街地から出れば、田んぼやアスパラガス・ピオーネなどの畑があります。担い手の育成についてですが、認定農業者の中にも集落法人の認定農業者、どちらかという個人で自立されている農家で、実際に農産物を売りながら、生活できるかが微妙な農業者が一番課題だと思います。それができるような販売力を強化していかなくてはいけないということが1点目にあるのではないかと思います。

また、集落法人は、農地等の保全を一番に考えている農家ではないかと思います。地域の農地を守りたいのが大前提にあり、次に、ある程度の儲けがしたいというのがあると思うのですが、そのあたりの棲み分けをして書いていただければと思います。

次に、おそらくICTやスマート農業のことが書かれているように読み取ったのですが、その辺にも触れていただければと思います。

〈公開用〉

もう1点、「生産力・販売力の強化」の部分で「地産地消の推進による学校給食への農産物の供給」との記載がありますが、学校給食センターもできて、JAの方でも食農教育の一環で学校の方でさつま芋を作ったり、稲を植えたりということをしておりますので、食農教育についても触れていただければと思います。

(委員)

商工の企業誘致というところで、ビッグネームの企業を積極的に誘致していただければ非常に良いのではないかと思います。中国自動車道と中国やまなみ街道の結節点という稀有な地理的メリットを活かすためには、そういったことが必要なかと思えます。ビッグネームの企業が来ると若者の目も変わって来ると思えますし、三次に残ろうかなという人も増えると思えます。

にぎわい創出につきまして、三次にはコーヒーを飲む場所がなく、そういった場所があれば全然違うという話も耳に入って来ています。誰でも聞いたことがあるようなビッグネームのコーヒーショップを誘致するといったことなど行政が積極的に絡んで取り組むと違ってくるのではないのでしょうか。お金も絡んできますので難しいこともあるのですが、そのあたりが進めばおもしろいのではないかと思います。

今はどこの銀行も、SDGsや地方創生に力を入れています。お金に関するリテラシーの教育など、小学校や幼稚園に出前教室などもしております。起業支援であれば、起業者の方向けの受付窓口のような包括協定の指導をすることも可能だと思えますので、行政から金融機関に積極的に声をかけていただければと思います。

(委員)

観光が一番即効性のある活力ある産業と理解しています。市民アンケートでは、「観光地へ多くの観光客が訪れている」満足度・重要度ともに低いと出ておりますが、三次DMOは昨年4月に市内の観光が一本化されて前進していると理解していただきたいと思えます。

特に嬉しい話題としては、先日、日本ワインコンクール2023で広島三次ワイナリーのワインが金書・銀賞・銅賞を総なめし、G7で使われたワインは品不足という状況になっていることです。

また、世界の女子野球の開催地が三次きんさいスタジアムであることも、三次の前途は明るいという思いがしております。

観光消費額については、令和2年は39億円の観光消費額でしたが、令和4年は50億円をめざそうと取り組んできて、結果は62億7千700万円という状況でした。宿泊者数については、令和2年が12万8千泊だったのを、令和4年では15万泊にしようとした結果、15万5千泊まで到達しました。稼ぐ力の創出ということですが、まさに三次DMOの使命だと思っています。三次市内全域の中で観光資源を見つけ、磨いて情報発信をして三次に来て泊まっていただいて、しっかりとお金を使っていたという流れです。先日も上海から女子スポーツのプロをめざす選手、監督も含めて39名で10日間来ていただきました。三次に来て泊まっていただくことが、稼ぐ力になると思っています。

魅力となる体験という言葉がありますが、美和桜酒造を通してのモニターツアーなど、三次の活性化を図っている取組をしており、さらに進めていきたいと考えています。

日帰り観光というのがありますが、ルートインやグランドホテルをはじめ、特別宿泊パックを作ることで、宿泊されるお客様も増えていると思っております。

受入環境については、DMOで日本政府観光局から外国人観光案内所の認定を受けたとありますが、英語、中国語、韓国語でお客様を迎えることができること、もののけミュージアムを含めてインバウンドにも力を入れているところです。

無料Wi-Fiの整備については、三次市内では今年度100箇所無料Wi-Fiを提供できるように取組を

《公開用》

行っております。そういったことにも力を入れていきたいと思えます。

(委員)

「生産力・販売力の強化」についてお聞きしたかったのですが、「トレッタみよしの売上は」と始まっている文章について、トレッタみよしを主語として進むのかと思ったのですが、その後に「SNS等を活用した農畜産物の発信や、ニーズにマッチした支援制度」ということで、これはトレッタみよしを支援する文章になっているのでしょうか。

(会長)

確かに文章が長すぎますので、工夫していただければと思います。

(委員)

もう1点、「農地等の保全」のところ有害鳥獣の話があるのですが、別項目で「獣害対策」として立てていただきたいというのが現場の農家としての意見です。「有害鳥獣被害額、捕獲頭数ともに高止まりしている」と記載がありますが、現場感覚で言えば高止まりではなく増加していると思っておりますので、別項目で設けていただきたいと思いました。

(会長)

最後に、全ての分野、あるいは最初の議論の骨子（案）に関連したことでも結構ですので、何かあれば発言をお願いします。

(委員)

どこでお話すればいいかわからなかったのですが、私は、三良坂に住んでおまして、7月のお祭りから「みらさかぞく」という若手組織に関わらせていただいています。若手が集まるという機会自体が少ないという話があつて、若者が移住して来ても自治に関わることがなかったので、今回、「みらさかぞく」を通じて、お店の方々と話したり、商工会に行くことができ、すごく良かったのかなと思います。今回、自治の方からそういう組織を作らせていただけて集まる機会を得ることができたのですが、なかなか自分たちで思っているところを言う場がなく、登下校の際に横断歩道や信号がないところについて、どこに相談したらよいかわからない状況があります。そのような声をどこがすくい上げていくのか、相談窓口になるのかというところを話し合いとして進んでいけば良いなと思いました。

(会長)

一人ひとりのご意見からまちづくりが進んでいくと思えますので、何らかの形で仕組みを整えていければと思いました。

他にどなたか全体を通じてご意見がございましたらお願いいたします。

(委員)

「みんなでつくる、みんなでめざす計画」が基本的な視点の一番に出ておりますので、いかにして市民の皆さんにしっかり浸透していただいて、読んでいただき、わかっていただくかということが一番重要だと思っております。いくらいいものができても、それをどのように行っていくのか、行政だけでなく我々一人ひとりが実行していかなければいけません。せっかく冊子ができても、色々などころで見ていただいて、市民の皆さんの意見が反映されるようなシステムを作っていないと次に進まないのではないかと思います。

《公開用》

「商工」のところで補足させていただくと、ホテルの誘致が実現し、それにあたっては商工会議所も様々な形で携わり、100%に近い稼働率が続いているということを聞いております。CCプラザの後にフレスポが入ることで、外からの資本が多く入ってきます。それによって三次の中にいる地場の個人商店の皆さんが少なからず影響を受けるのは間違いないことです。そのところをどのように考えていくかということを、商工会議所や商工会は考えていかなくてはなりません。

三次はドラッグストアがたくさんありますが、それによってもっと広範囲の地域から三次に買い物に来ていただけるような、三次で買い物をしていただけるようなシステムの形が整ってくれば、三次も便利なまちだという印象ができてくるのではないかと考えています。

なかなか外資本に対して、ブレーキをかけていくことは大変難しいのですが、市民の皆さんが考えていることを外から来ていただいている企業にもわかってもらう、理解をしていただけることが必要だろうと考えております。

(会長)

その他、意見がまだまだあると思いますが、予定した時間が近づいてまいりましたので、「議事(2)その他」について、事務局から説明をお願いします。

4 その他

(事務局)

その他でございますが、次回以降のスケジュールについてお知らせをします。次の審議会の開催は10月27日（金）の9時30分からを予定しております。内容につきましては、計画素案の策定に向けた政策ごとの方向性、内容についてご審議いただければと思います。

全分野にわたって議論していただきたいと考えておりますので、10月27日に議論が全て終了しなかった場合は、予備日として11月6日（月）の14時からを確保させていただければと思います。

皆様にご負担をかけるところではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

5 閉会

(会長)

次回の日程等の説明でございましたが、ご質問等はよろしいでしょうか。

ないようですので、本日の会議を終了したいと思います。本日は活発なご意見をいただき、皆様のご協力に感謝したいと思います。ありがとうございました。